

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念の「はじめに利用者ありき」を共有し、ご利用者様と共に生活をしていく支援をさせていただいている。	理念は事務所に掲示されるとともに、年に1回、事業所の内部研修を行って、理解が深まるよう努めている。また管理者が中心となり、職員の理解が更に深まるよう日々のケアの実践を通じて、指導がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	南中町会の行事に参加をするようになってきた。 令和5年12月に餅つき大会 令和6年7月町会の夏祭り	現在、市の防災モデル事業として、防災をきっかけに地域との連携を深めており、町会と交流事業を行う等、日頃から地域との関係作りに努めている。また福祉避難所として地区での期待も大きくなっている。今年度からは回覧板も回して頂けるようになり、地域とのつきあいが着実に深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の理解や支援を地域に伝える機会があれば、行っていきたいと考えている。町会役員の方には「しまうちの家」はどんな施設なのかを知っていただく説明会を、昨年度実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には河西部包括、島内地区地域づくりセンターの方に来ていただいている。その時に報告、相談をしている。成年後見制度でご利用者様が身元保証人になり、事業所が窓口となって役所とご利用者様をつなぐお手伝いなども行っている。	2か月に1回、利用者、地区の町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーターが参加して開催されている。会議に地区の方が参加することで、日頃から防災等で施設と町会との交流事業が行われるなど、運営推進会議を活かした取り組みがされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	災害時の連携強化でなく、日頃からの「近所付き合い」のような関係作りを少しずつ進めてきている。今年度は地区の回覧板を閲覧できるようになった。福祉避難所についても松本市福祉政策課と協議する予定でいる。	上記の通り、2ヶ月に1回開催される運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加されている。また、高齢福祉だけでなく、松本市の防災モデル事業を通じて防災や福祉避難所の指定を受けたことで市福祉政策課との連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内研修などで身体拘束について研修などを行っている。日頃の何気ない行動も身体拘束に当たることもあるので注意をしている。	開所以来、身体拘束は行われていない。研修での学習に力を入れ、本年度も身体拘束に関する事業所内研修を2回実施した。毎月開催されるリーダー会議内において、身体拘束に関する話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修などで虐待防止について研修などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内研修でも取り上げられたので、今後は事業所内研修で周知していくように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にもご説明を行うが、事前面接時にも事業所でできることを事前に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	請求書の郵送時に簡単なお手紙と一緒に入れている。ご家族様が来所時や、電話にて、必要に応じたご報告をしている。	ご家族に対しては、面会での来所時や電話、メール等で意見の把握を行っている。毎月、請求書と一緒に利用者の様子を綴った手紙を送って、施設での生活の様子をお伝えし、信頼関係の構築に努めている。また最近SNSを始め、より生活の様子が理解できるように情報発信に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や全体会議で意見を聞いたり、調整を行っている。必要に応じて個別でも相談に乗るようにしている。	毎月開催される全体会議、リーダー会議、ユニット会議及び年2回の職員面接等で職員から出された意見については、出来る方向で調整をするよう心掛けている。最近では、職員からの要望で玄関扉のブラインド設置を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課表を参考にして個人面談を年2回又は3回行い、代表者に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得に関して、職員への支援をしている。個人で外部研修などに参加されている場合は参加できるように協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北アルプスの風法人グループと長野県介護福祉士会中信支部共催で研修を実施した。今後の共催研修の実施相談も来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者様と関わりを持つだけでなく、日常会話を気兼ねなくできるように話しかけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の来所時に相談に乗ることもあるが、県外のご家族様については、メールや電話などでやり取りを行うこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様などに、入所前はどのような生活をしていただいていたのか聞き取り、ご利用者様ができそうな事を提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設経験者の職員もあり、一方になりやすいので、ご利用者様と一緒に行動するように指導をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会を、短時間ではあるが再開している。ご家族様には事前にご連絡をいただき、重ならないようにしている。衣替えなどはご家族様に居室に入らせていただき、必要に応じてご家族様にも手伝っていただくこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様以外の面会もしている。	コロナによる面会の制限もなくなり、ご家族や親類、知人等との面会が出来ている。今年は外出レクリエーションで地元のお花見や紅葉狩りに行ったり、地区の餅つき大会やお祭りなど、地区の行事にも参加することが出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事などで全体交流を図ったり、行事準備なども手伝っていただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院によりサービス終了になったご利用者様ご家族の来訪や電話で、当事業所以外の施設相談などの対応をした。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活やご利用者様との会話から、希望や意向などを把握している。困難なご利用者様については、身体状態や些細な行動から把握するように努力をしている。	利用者との日々の関わりの中から、思いや意向を把握している。言葉で伝えることが難しい方は、笑顔等の表情やしぐさ、様子などから把握に努めている。またご家族からの聞き取り、生活歴を参考にしながら、本人本位のケアが提供できるよう努力されている。細かい情報収集がなされ、共有しやすいようにまとめられている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	馴染みのある物など自宅から持ってきていただくようにし、その人らしいお部屋になるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	気づいたことがあれば、毎日の申し送りや記録に残すなどして把握に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに沿ったケアの実施をしている。その他として個別介護計画書を居室担当者が作成し、共通認識を持ってケアを実施している。	介護計画は、ケアマネージャーが中心となって作成している。介護計画から落とし込んだ個別計画の作成で、より細かな支援を行っている。本人・ご家族の意見や要望に加え、必要に応じて医師や施設の看護師が連携し、意見やアドバイスをもらうことが出来ている。モニタリングは、ユニット会議で毎月開催し検討されている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	状態変化や気づいたことがあれば、記録に残すようにしている。ADL(日常生活動作)の変化があった際には、出来る限り細かく記録を残し、その後の支援方法に反映するようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	住み慣れたグループホームでの生活を望んでいるため、病院からの指示等で医療行為が必要であれば、ご家族様と相談をしながら、ご利用者様に合わせた福祉用具レンタルなどを活用している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議を通して、夏祭りや餅つき大会などの町会行事に、ご利用者様と一緒に参加をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院の往診だけでなく、必要に応じて電話相談をしている。	かかりつけ医は、本人及びご家族の意向が尊重され、自由に選ぶことが出来る。かかりつけ医が協力病院の場合は往診がある。通院は、協力病院の場合は基本的に施設で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週一回の訪問看護の時だけでなく、電話やメールなどで相談や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の判断にもよるが、グループホームでの生活が維持出来るようなら、早期退院で受け入れられるように、事業所内での調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の意向に沿いながら、できる限りの支援をしていきたいと考えている。しかしながら医療行為が常時必要になった際には、グループホームでの支援の継続が困難になることもあるので、事前に説明している。	看取りに関する指針があり、体制を整えている。今年は1名の看取りを行った。重度化した場合、主治医を中心に家族と話し合い、方針を共有する。医療機関から退院する際のカンファレンスで話し合われるケースが多い。可能な限り、施設で支援出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な事業所内研修と、事例を基にした事業者内研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	運営推進会議などで日頃からの関係作りを進めている。事業所内研修などでBCP(事業継続計画)の研修を行い、職員に災害時の対応の確認をしている。福祉避難所については、9月に松本市福祉政策課と協議をする予定。	年2回の防災訓練が実施されている。今年は火災想定、夜間想定で実施した。BCP(事業継続計画)の作成を通じて、災害時の地域との連携体制の構築が進んで、福祉避難所の指定も受け、専門性を活かした地域への貢献が期待されている。市との会議では、災害時の段ボールベットや簡易トイレの作り方等を学習した。	

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様が不快にならないような言葉かけに、注意を払っている。状況によっては全体会議などで注意をするよう伝えている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、管理者がリーダーシップを取り、取り組まれている。人格の尊重やプライバシー保護に関する研修が毎年開催され、今年は4月に職業倫理と接遇の研修、10月に高齢者虐待・プライバシー保護の事業所内研修が行われた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の意向にならないようにしているが、場合によっては管理者が、ご利用者様の意思決定なのか職員に確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合にならないようにしているが、出来る職員と出来ない職員がいるので、統一した支援が出来ないこともある。今後も努力をしていきたいと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出する際には身だしなみに気をつかうが、日常生活では出来ていないこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や後片付けなど、出来るご利用者様は職員と一緒にしている。	食事は基本的にクックチルで運ばれてきたものを温めてご提供するが、週に1回、日曜日の昼食は手作りでご提供している。また時折、手作りでおやつ作りをすることがある。食後の後片付けを手伝ってくれているご利用者が複数名おり、食器を洗ったり、拭いてくれる等、ユニットを越えて手伝っているご利用者もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	現在は管理栄養士が考えたクックチルという方式で温め直して食事の提供をしている。ご利用者様に応じて食事形態の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身でできる方は声掛けを行い、介助が必要な方は支援をしている。必要な口腔ケア用品は職員が管理し購入している。必要に応じて訪問歯科を、ご家族様の了承を得てから依頼している。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ADL(日常生活動作)に合わせて、排泄用品を使用している。排便については、オムツを使用しているご利用者様でも、必要に応じてトイレに座っていただく支援をしている。	パットを汚さず出来るだけトイレでの排泄が可能となるように、排泄チェック表の記録を基に、各々の適した時間でトイレへの誘導等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫の他に腹部マッサージやトイレに座っていただくなどをして、排便を促している。便秘や便状態に応じて看護師や主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的には曜日や時間帯は決まっているが、入浴を好まないご利用者様については、その人のタイミングで入浴していただくようにしている。	入浴する曜日や時間帯は基本的に決まっているが、心身の状態等によって変更されており、臨機応変に対応している。脱衣室・浴室共に冬場も暖かく快適。浴槽を跨げない方が利用するチェア浴の浴槽も、家庭的な趣きがあり、落ち着いて入浴することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングに座りながら寝てしまうご利用者様もいるので、その際にはベッドで休んでいただくように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、看護師、薬剤師に相談や助言をいただきながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活で役割が持てるような支援をしているが、嗜好品や気分転換などもご家族様と相談をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お花見、紅葉ドライブなどの行事を実施している。必要に応じた他科受診などは職員又はご家族様で行っている。	施設の車を使い、一度に2、3名をお連れして、お花見や紅葉狩り、地区の餅つき大会やお祭りなどに外出されている。天候の良い日は、施設の周囲を散歩して季節の花を眺めたり、お花を摘むなどして楽しんでいる。	より日常的に、散歩等で施設の外へ出かけられる機会が増えていかれることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金は事業所管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、事業所の電話をお貸しすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先などに、季節に応じたものを設置し、季節感を味わっていただくように工夫をしている。家庭菜園も、季節に応じた野菜作りなどをしている。	施設内は木材がふんだんに使われており、テーブル等も木の色調に合わせている。壁紙もうぐいす色でモダンな雰囲気。敢えて過度な飾り付け等はせず、どの共用スペースも高級感がありながらも大変落ち着いた雰囲気になっている。施設の中央に大きなウッドデッキがあり、双方のユニットから出ることができて、家庭菜園の野菜の成長、のどかな田園風景や山々も眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご利用者様同士が話しやすい席の配置や、希望に沿った席の配置を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた寝具などを持って来ていただくなどしている。ご利用者様のADL(日常生活動作)に合わせて、福祉用具を借りることもあるが、その際にはご家族様と相談して使用していくようにしている。	どの居室も、自宅で使っていた筆筒などの家具、思い出の品等が持ち込まれており、自宅の部屋のような雰囲気が作られていた。ご本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。夫の位牌、遺影を飾られている方もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内が広いので福祉用具を活用して歩行の継続、車椅子であれば自走をしていただいている。車椅子から椅子に座っていただくなど、生活動作を増やしている。		